

「イエス・キリストのもとに」

エフェソの信徒への手紙 1：7-14

2023年7月16日
野村 友美 師

<近くではわからない絵のように>

例えば、美術館で大きな絵を見たときに、近くで見るとなんだかよくわからないけど、少し離れてみたらそこに描かれているものがはっきりと美しく見えてきた、なんていう経験はないでしょうか。特に油絵の作品なんかは、間近で見るとまるで何だか適当に絵の具を重ねて、筆で大雑把にのぼしたみたいに見えます。ですが、その作品を描いた画家が「ここから見て欲しい」と思っている場所から見てみると、重なった絵の具の色や筆遣いがお互いに影響しあって、何とも繊細で美しいモチーフが浮かび上がります。

近くで見ていた時には「何でここにこんな余計な色があるんだろう」と思えた部分が、何とも言えない良い効果を生んでいたり、歪んだ雑な線の集まりに見えたものが、実はとても綺麗な花を描いていた。

そんな風に、まるで大きな油絵のような作品を、神様が私たちに見せてくださっている。

そういうことを、エフェソの信徒への手紙は今日の箇所です。私たちに伝えているように思います。

「秘められた計画」とここで呼ばれているものが、神様が描いて見せてくださる作品です。

この作品を真ただ中で見ている時には、どんなものなのか私たちにばかりはよくわかりません。

でも神様が、私たちに恵みを溢れさせて、知恵と理解を与えて、「ここから見てほしい」と知らせてくださっている。この手紙を書いた使徒パウロは、そう語っています。

神様が私たちの上に溢れさせてくださった恵みと、神様から私たちに与えられる知恵と理解。

そこから見るときに、私たちは神様の「秘められた計画」という作品にいったい何が描かれているのかを知ることができる、というのです。

<神様が描かれる救い>

「秘められた計画」と訳されているこの言葉は、直訳すると「御心の奥義」、つまり、神様の思いの奥深くにあるいちばん大切なことを表す言葉です。神様の秘められた計画、神様の思いの奥深くにあるいちばん大切なこと。

それは、神様が御子イエス・キリストによって実現しようと決めておられたこと、すべての人を救おうという神様の愛の決断です。

私たち人間はみんな、誰も例外じゃなく、罪を持って生きています。一人一人に命を与えて生かしておられる神様の思いを無視して、ただ自分を満足させることを追い求めて、そのために周りの何かや誰かを、時には自分自身も、自分勝手に扱ってしまいます。傷つけて、悲しませて、時には尊厳や命さえも奪って、でも「仕方ないんだ」「必要な犠牲だ」なんて言い訳して、何なら反省するどころか、自分は正しいことをしたと思ひ込みます。いえ、そもそも私たちは、自分がしたことを本当に自覚しているかどうかだっけ怪しいでしょう。

皆さんは「目には目を、歯には歯を」という言葉をお聞きになったことがあるかと思います。

やられたらやり返せ、というような意味でよく使われる言葉ですが、本来の意味は少し違います。

この言葉は元々、旧約聖書の出エジプト記やレビ記で命じられている律法の言葉で、もっと遡れば古代バビロニア帝国のハンムラビ法典に書かれている言葉です。「目には目を、歯には歯を」。

それは「目を傷つけられただけなのに、お返しに相手の目だけじゃなくて耳も腕も足も傷つけてやろうとしてはいけない」という決まりごとでした。

怒りに任せて、自分がされたこと以上にひどい復讐をしてはいけない、そういう戒めだったんです。

そう決めておかないと、自分の気がすむまで際限なく傷つけ合ってしまう危うさを、誰もが多かれ少なかれ抱えているんじゃないでしょうか。

傷ついた体の痛みだけじゃなくて、心の痛みまで何もかも全部完全に償ってもらいたい、と求めずにはいられない。それほどの悲しみや怒りを、私たちの罪はお互いの間に生み出してしまうものなんです。それでも、自分の罪の結果を完全に償うことは、誰にもできません。

そんな私たちのどうしようもない罪を、その罪が私たちにもたらす痛みの連鎖を、神様は深く悲しまれます。

お造りになった世界のすべてを愛して、「良し」と言って祝福された神様は、その愛するものたちが傷ついたままで、罪を背負ったままで亡び去ってしまうのを、決して良しとはなさいませんでした。すべての人の罪を裁いて、そしてすべての人の罪

を赦して、一人残らず救い出すために、神様はご自分を犠牲にすることをお選びになりました。

神様の御子イエス様は、人間としてこの地上にお生まれになりました。人間の喜びも悲しみも、傷も痛みも、全部ご自分のこととして味わって、その上で、すべての人の罪の責任を十字架の上で償われました。

だから今日の聖書の箇所、パウロはまずこう宣言しています。

「わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。」

神様が造って神様が愛しておられるものを傷つけずにはいられない。神様もお互いも傷つけて悲しませる、そんな私たちの罪が神様からの恵みによって、償われて赦された。神様はこの恵みを私たちの上に溢れさせてくださる、とパウロは伝えていています。

この人の分はあるけど、あの人の分はない、なんでもものじゃなくて。すべての人を十分に満たして溢れるほどの、救いの恵みです。

この恵みを知って、受け入れて、イエス様によって罪から救われたと信じる時に、私たちは知らされるんです。

神様の「秘められた計画」、神様の思いの奥深くにあるいちばん大切なこと、すべての人を救おうという神様の愛の決断を。

すべての人が、すべてのことが、神様の救いを描

き出す絵の具の一色として、一筆の線として使われていくことを、イエス様によって私たちは知らされるんです。

<イエス・キリストのもとに一つに>

神様の秘められた計画、とパウロがタイトルをつけたその作品は今もまだ完成はしていません。

すべての人を救おうとしておられる神様の働きは、今もなお御子イエス様によって、私たちの間におられる聖霊によって続けられています。

その完成する時の光景を、パウロはこんな風に表現しています。

「こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。」

みんな一つにまとめられる。

そう言われると、ちょっと怖いような気がしませんか？私たちはみんな一人一人、他の誰とも違うオリジナルな存在です。性格だって、好みだって、考え方だって、経験したことだってみんなそれぞれに違います。誰とも違うし、誰も代わりにはなれない、そういう一人一人として神様は私たちをお造りになったはずです。

なのに最後には、みんな一つにまとめられて、無理やりみんな同じにされてしまうんでしょうか？一つになれない人は、切り捨てられてしまうんで

しょうか？そうじゃありません。

「一つにまとめる」と訳されている元のギリシャ語は、あまり使われないちょっと珍しい単語です。「集める」とか「総括する」という意味のこの言葉は、それぞれ別々の物ごとが、最終的に一つの大きな全体としてまとめられることを表現するものです。

それはつまり、一つにまとめられたその全体図を見て初めて、それぞれの事柄が持っていた意味がわかる、ということでもあります。

ちょうどジグソーパズルを組み合わせた時に、初めてそれぞれのピースの役割がわかるように。

油絵のキャンバスに重ねられた絵の具の一色、描かれた一本の線がそれぞれ何を表現しているのか、全体を眺めた時に初めて見えてくるように。

神様の救いが完成されるその日には、あらゆるものがイエス様の元に一つにまとめられて、それぞれに神様がどんな意味を込めておられたのかわかるようになる。

パウロはそう伝えているんです。

それぞれに違う私たちに、神様がどんな思いを込めておられるのか。「何でこんなことが」と思うような出来事に、神様がどんな意味を持たせて、どんな風にお使いになるのか。

完成の日には、私たちの目にもはっきりと美しく浮かび上がるのだと、この「一つにまとめられる」という言葉が表現しているのです。

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

そう旧約聖書のコヘレトの言葉が語っているよう

に、時が満ちれば、神様がお決めになったその時
が来れば、すべての意味がわかるようになる。

今日の聖書の言葉は、私たちにそう約束していま
す。その時がいつなのかは、パウロにも、ここに
いる私たちにも、誰にもわかりません。

今わかっていることは、神様の救いが完成するそ
の日は神の国が完成する日でもある、ということ
です。

神様の愛がすべてのものを治める神の国が、イエ
ス様のもとで、天と地の区別を取り払って完成す
る日が来る。

その日、神様の領域と私たち人間が生きる領域は、
一つにまとめられる。そのようにパウロは告げ知
らせます。

神様の恵みを受け入れて、イエス様を救い主と信
じる人はみんな、この神の国を受け継ぐ相続人で
す。その時がいつなのか、今はまだわからなくて
も。

完成する前から、今もうすでに私たちは、神の国
への所属を保証するハンコを聖霊によって押され
ている、とパウロは宣言しています。

何で私はこんなのか。何で神様はあの人をあんな
風にしておかれるのか。どうしてこんなことが起
こるのか。日々私たちが出会う人も出来事も、自
分自身も、私たちには意味がわからないことだら
けです。

神様は本当に私たちを愛しておられるのか、神様
の正しさはいったいどこにあるのか、と迷い悩ま
ずにはいられない時があるでしょう。今はまだ
わからなくても。

今はまだ完成されていなくても、私たちはイエス
様という御方の存在を通して、すでに知らされて
います。

神様がすべての人を愛して、救おうと願って今も
働いておられることを。

すべての人が、すべてのことが、神様の救いを描
き出す絵の具の一色、一筆の線として使われてい
くことを。

そして神の国が完成する日には、すべての意味が
わかるようになることを、私たちは知っています。
だから希望を持って、神様がなされるすべてのこと
に期待して、今日もここから送り出されてまいり
ましょう。

私たちがそれぞれ遣わされていく日常生活の中で、
出会わされる一人一人、起こる出来事の一つ一つ
に神様が必ず愛を込めて働いてくださる。

この良い知らせを抱きかかえて、ご一緒に歩き出
していきましょう。

お祈りいたします。